

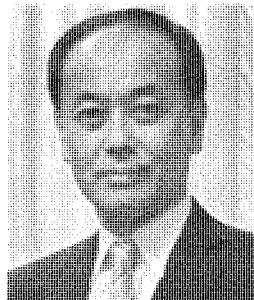
都小視研会報

平成 29 年 8 月 1 日 (H28-2)

東京都小学校視聴覚教育研究会
URL <http://teav.csde.com/>
e-mail mail@teav.csde.com
通刊 317 号

事務局 台東区立金竜小学校
〒111-0031 台東区千束1-9-9
電話 03-3871-9893 Fax. 03-3871-9514

都小視研における研究実践から



本研究会の研究主題「生きる力を育む視聴覚教育の追究」は、現行学習指導要領が示された平成 20 年に第 13 次研究構想として策定した。以来、

- ・知識、技能の確実な習得を目指す工夫
- ・課題解決能力を育む工夫
- ・主体的に学ぶ態度を養う工夫
- ・言語活動を充実させるための工夫

の 4 点を研究のねらいとして、これまで様々な実践を通して研究を進めてきている。

近年では、コンピュータやインターネットの導入により、「情報活用能力の育成」や、「ICT の効果的な活用」による分かりやすい授業の追究が強く求められるようになり、本研究会の名称にも（情報教育・ICT 教育）と示すようにした経緯がある。しかし、「視聴覚教育」の名が示す通り、拡大した図や写真、音響、映像等の活用が子どもたちの学習を充実させる重要な手立てであることや、これらを上手に使いこなすことが授業力のポイントの一つであることが、時代を超えて確かであるのは間違いない、これからも日進月歩の新しい機器の登場に応じて、学校現場で有効活用を追い求めていくことが必要である。本研究会がその礎となって、積極的に実践を進めていくよう努める所存である。

情報機器の効果的な活用が授業を支える不变の手立ての一つであるという話の一方で、今やあって当たり前のインターネット社会であるがゆえに生み出された近年における特徴的な社会問題が、「ネットいじめ」や「ネット依存」に代表されるインターネットの弊害の部分である。

一昨年 11 月、東京都教育委員会は「SNS 東京ルール」を策定し、学校と子どもと家庭が連携して SNS のよさと課題を整理すること、また、主体的なルール作りの活動を通して、ネット利用がもととなる様々な問題の解決につなげていくことを期待した。携帯電話、スマートフォンの普及率を見れば、今や小学校低学年でさえも多数が所持しており、そのほとんどの家庭がゲームや SNS を自由に使わせている実態があった。機器の便利

さが独り歩きし、正しい使い方の指導が追いつかない状況である。

「機器を買い与えた親の責任」と言うのは簡単だが、果たしてその親に正しい使い方の指導ができるかどうか…。ここに学校の役割がある。「子どもが使ってもよい機能は?」「使ってはいけないことは?」「使っていい時間は一日どれくらい?」「友達とどんな内容をやりとりしている?」「写真や動画で撮ってはいけないものは?」…。

どの家庭においても共通でなければならないルールもあれば、家庭によって多少の違いがあつて然るべき内容もあるのだが、これらについて「子どもの安全な生活のために」と学校が各家庭に呼び掛け、共に育てていく仕組みを作つて進めていくことが必要な時代なのだと思う。そして、その役割は、情報機器の有効活用を先導する私たちが引き受け、各校で確実に実践されるようになることを目指したいと思う。

しかし、一例として考えれば、「ネットいじめ」のことも一昔前であればメールやラインではなく交換日記がもとであることが多かった。ただ子どもたちに自由にやらせるのではなく、時に親や先生がこっそり見て、心配な内容を見付けることで解決につながるケースも少なくなかったはずである。そう考えればメールやラインも、子どものうちにはもっと親が干渉すべきなのではないか。

「ネットいじめ」の背景には、端末が個人の持ち物で、親ですら勝手に見てはいけないというような決めつけた考え方があるのではないか…と思えてしまう。

都小視研の研究大会では、毎年「情報モラル」指導に関する授業も公開をしている。これまで Web 教材や協働学習支援ソフト、ゲストティーチャーの活用等の実践を発表してきた。東京都が作成している「SNS 東京ノート」も、今春平成 29 年度版が配布され、話し合い活動に活用できる教材が工夫されている。本教材を活用し、「主体的で対話的な学び」を目指した授業にもチャレンジして、情報機器を便利で安全なツールとして活用できる世の中にしていくための貢献をしていきたいと思う。

第3学年 理科「こん虫をそだてよう」

授業者 台東区立浅草小学校教諭 川上 学

■はじめに

台東区では、全小学校の普通教室に電子黒板と実物投影機が配置されている。また、算数、社会科、理科のデジタル教科書も、全校に導入されている。これらのＩＣＴ機器等を活用し、子供たちにとって興味関心がもてる、分かる授業を行うことが求められている。

本単元を学習するに当たり、学級の児童に実態調査を行った。その結果、虫が好きであるという児童と、虫が嫌いであるという児童の割合は、ほぼ半数であることが分かった。虫が嫌いという児童の中には、虫を触ることができないという児童が多く、中には教科書の写真も見たくないという児童もいた。ただし、児童が2年生の時に飼育したヤゴについては、苦手とする児童は少なく、普段からよく見かけるダンゴムシについては苦手であるとした児童はいなかった。

そこでこの単元では、児童に虫に親しみや興味をもたせるために、モンシロチョウやアリなどを自分たちで飼育させることにした。ただし、詳しく虫の体のつくりを観察する場面では、虫が苦手な児童に配慮するとともに、虫の体のつくりを全員が理解できるように映像を大きく写して観察することにした。特に、観察しづらい虫の足についている場所については、虫の体を回転して見ることができ、デジタルコンテンツを使用した。これらのことにより、虫の嫌いな児童でも無理なく観察ができ、全員で分かりやすい映像を見ることにより、昆虫の体のつくりに関する理解ができると考えた。

■授業の概要

(1) 学年・教科 第3学年・理科

(2) 単元名 こん虫をそだてよう

(3) 単元の目標

・身近な昆虫を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができる。

(4) 学習指導計画 (5時間扱い)

【第1時】

・モンシロチョウはどの様に成長していくのか予想しよう。

【第2時】

・モンシロチョウの幼虫とさなぎを観察しよう。

【第3時】

・モンシロチョウの成虫を観察しよう。

【第4時】(本時)

・虫の体のつくりを観察しよう。

【第5時】

・いろいろな虫の体のつくりを観察しよう。

■本時の指導 (60分扱い)

(1) 本時の目標

・クロオオアリとスズメバチの体は頭、胸、腹からできいていて、足が胸に6本ついていることが分かる。

・体が頭、胸、腹に分かれ、胸に6本の足がある虫を昆虫ということを知る。

(2) 学習計画

・クロオオアリの成虫の体のつくりを観察する。

※実物投影機で写真を拡大する。

・スズメバチの成虫の体のつくりを観察する。

※実物投影機で写真を拡大する。

- ・体のつくりを観察して気づいたことを書く。

成虫の体のつくりを比べよう

- ・クロオオアリとスズメバチの体を360度回転させて観察する。

※デジタルコンテンツをプロジェクターで拡大して、からだを360度回転させて見せる。

- ・共通点を見つけ発表する。
- ・昆虫の体のつくりを確認する。

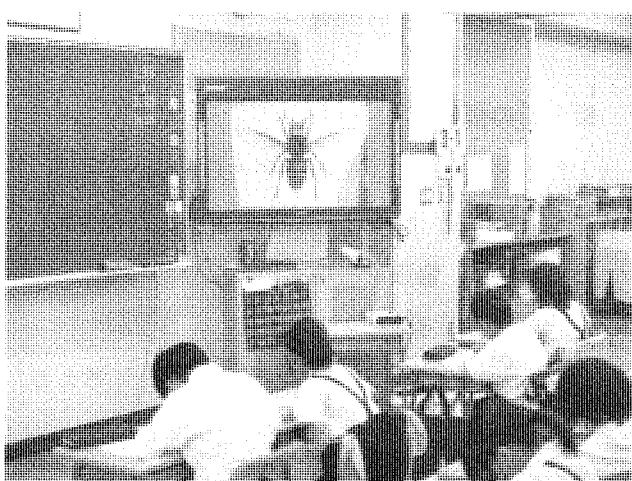


図1 実物投影機の画像をみて、スズメバチの体の観察をする

■考察（○成果・●課題）

- 虫が嫌いな児童にとっては、今回のようにＩＣＴを活用することは有効であった。
- 全員が同じ画像をみるとことによって、話し合いがしやすかった。
- 虫の足の付け根が暗くて分かりにくかった、せっかく画像を大きくしてみせるのだから、みやすい画像や機器を使用したかった。
- 大きな画像だけではなく、児童の手元にも画像があると比較などもしやすかった。
- 使用しないときは画像を写さないなど、児童を集中させる手立てが必要である。

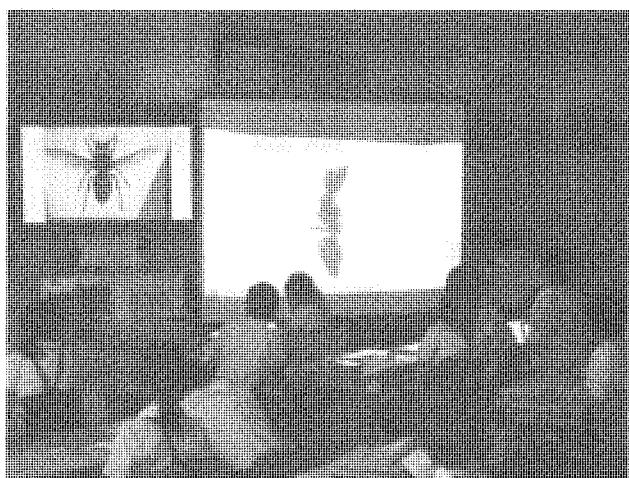


図2 クロオオアリの画像をスクリーンに映し、回転させて観察している。

■おわりに

今回の授業では、電子黒板用の大型ＴＶと、実物投影機用のプロジェクターを映すスクリーンを使用したが、その配置が難しかった。また、プロジェクターの光量が十分でなく、画像の暗い部分がみにくくなってしまった。最適な機器を使うように心がける必要があった。

理科の観点からは、どの程度実物を観察させるのか、どの程度画像の観察でよいのかが課題であるとの指摘をいただいた。今後の取り組みの参考にしたい。

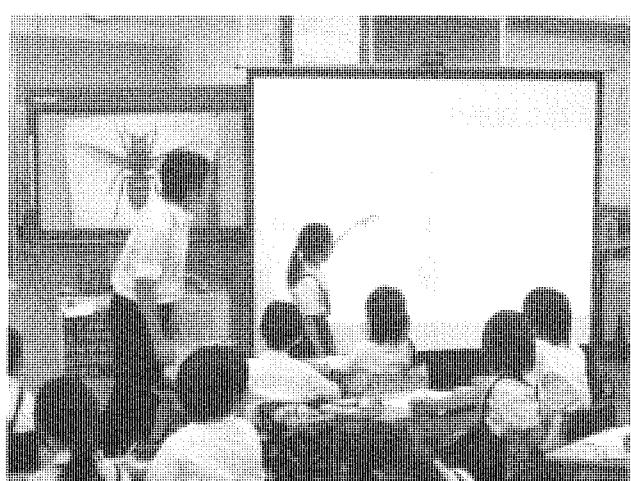


図3 虫の体の共通点について、気付いたことを発表している。

第5学年 社会「情報化した社会と私たちの生活」

授業者 杉並区立高井戸第九小学校教諭 鈴木 陽子

■はじめに

スマートフォンの普及が進み、家にパソコンがない家庭でもインターネット環境が整備され、手元で動画が手軽に見られるようになってきた。保護者が子供にYouTubeなどの動画サイトを見る機会を与えることも多くなってきている。児童の将来の夢に「ユーチューバー」が上がり、有名なユーチューバーも出てきている中で、注目を浴びるために違法行為を行ってネットに投稿するものが出でてくるという問題も起り、「炎上」は一つの社会問題にもなっている。

本実践は、研究の重点の1つである、「知識・技能を確実に習得する工夫」をめざした。私の勤務する杉並区では、全普通教室に電子黒板機能の付いたプロジェクトとタブレットPC、インターネット環境が整備され、大画面で動画等も手軽に提示して授業を行うことができるようになっている。また、校内無線LANにより、タブレットPCを使って各班や個人で、動画を好きな場面で何度も繰り返し視聴することができる。そこで本単元では、電子黒板とインターネット上で公開されている飲料水のテレビCMを活用し、児童が身近に触れているCMから、最終的に情報の発信者として、情報リテラシーを育みながら、発信する側の公正さについて考え、批判的な視点で情報に接することができるようすることを目標とした。

そのために、この単元では、様々な体験をする中で、次のことを学ばせた。①情報は発信者側で取捨選択されていること、②映像情報は受け手の印象を大きく左右すること、③得た情報は信憑性を検証する必要があること、④情報の発信者は正確に伝えよ

うと努力していること、⑤CMなどの商品情報は目的があって構成されていること、である。その結果、情報手段を適切に活用する態度が育っていくと考えている。

■授業の概要

- (1) 学年・教科 第5学年・社会科
- (2) 単元名 情報化した社会と私たちの生活
小単元 情報を生かすわたしたち
- (3) 単元の目標
 - ・社会における情報の役割と影響について考える。

■本時の指導（2／6）

- ①普段の生活とCMとのかかわりについて考える
 - ・普段どんなCMを見ているだろうか
→ゲーム・食品・洗剤・電化製品
- ②CMを見て、その伝えようとしていることや印象・違いは何かを考えよう
 - 商品名・使われている素材・味
 - さわやか・すっきりしそう・健康によさそう
- ③CMの目的は何か考えよう
 - たくさん的人に商品を知ってもらうため
 - たくさん的人に買ってもらうため
- ④CMの効果について考えよう
 - 見る人の印象に残る
 - 商品の良さを知ってもらう
 - 商品に興味をもってもらう
- ⑤CMを見るうえで大切なことを考えよう
 - 中で使われている情報を鵜呑みにしない
 - ほかの情報と比較するなど、正しい情報を探し出すようにする。

(4) 評価

- ・CMのもつ効果や影響について知ることができたか
- ・情報を発信するときに気を付けることについて考えることができたか

■成果◆と課題◆

○電子黒板の活用について

- ◇大写しにすることで課題が共有できた。
- ◇児童が1つの画面に集中できてよかったです。
- ◇画像の細かいところもズームして見せられるという良さが出ていた。
- ◆設置の環境上仕方ないが、外光が映り込み見にくくなる場合があった。
- ◆電子黒板や電子ペンの活用に慣れておらず、もっとスムーズに活用する方法があった。
- ◆映像を出しておく場面と消す場面と、メリハリを付けるともっと効果的になった。

○タブレットPCの活用について

- ◇何度も手元で繰り返して見ることができたことで、児童が視点を絞り集中して見ることができた。
- ◇授業者が資料を見る視点を明確にしたので、児童の良い気づきが多く出された。

◆あちらこちらで音が出ると集中できない場合もあった。また、使わない場合は片付けるなど、集中する手立てが必要であった。

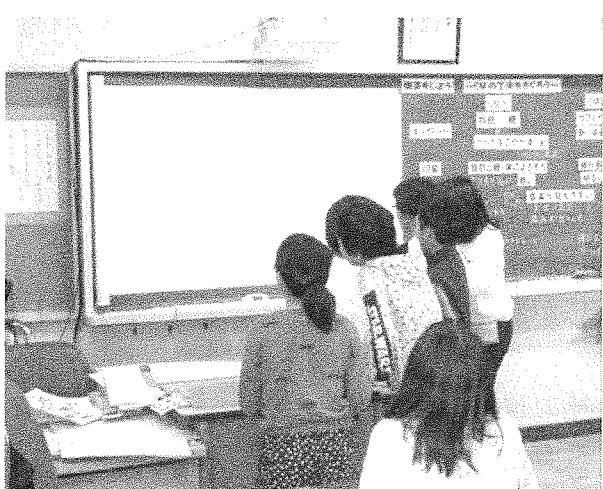


○児童に身近なCMを題材として提示したことについて

- ◇普段見慣れているCMから、関心をもちスムーズに導入できた。

○その他

- ◇実際にCMを見て感想を話し合うことで、それぞれ感じ方が違うことが分かった。



- ◆班に1台だと、個人で時間内に十分見切れない場合があった。

第63回教育映像祭 第17回夏休み子ども映画フェア 8月18日(木)

「心の教育」の一環として、「視聴覚教育の果たす役割を映像教育という原点に戻り、子供たちに感動する映画を提供し、映画の良さを知ってもらう」ことをねらいとして、昨年同様、文京シビックホール・小ホールにて実施しました。フィルム選定は、映像研究会を開催し、各映画会社の今まで制作された作品の中で、教育映像祭受賞作品および文部科学省特選・選定作品の中より、プレス選定・試写を行い、次の5本を上映作品としました。

- ・かんすけさんとふしぎな自転車 (23分・北星)
- ・彦一とんちばなし (18分・学研)
- ・ヘレンと共に (20分・学研)
- ・那須疏水物語 (20分・桜)
- ・名犬物語 (20分・東映)

開催当日までに、各地区教育委員会を通じて各小学校に案内・ポスターを配布し、参加募集を行いました。さらに、文京アカデミー広報誌への掲載と協力依頼も行いました。

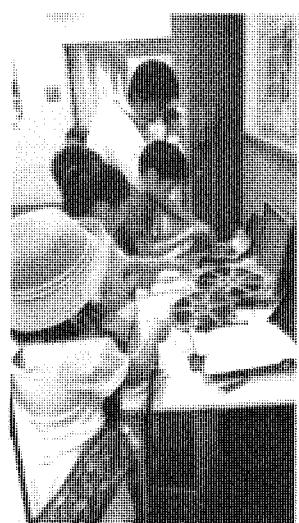
当日は開場前から並ばれる子供たち・保護者もあり、合わせて270名の参加がありました。

映画鑑賞後に、何人かの子供たちから「普段見られない映画が見られてよかったです」「いつの時代も大切なものは変わらないと思った。」との感想がありました。

保護者からも「毎年来ているが、内容がよかった。子供に伝えたいものがあった。」「今年は心温かい内容のものが多かった。」「是非読ませたい本の内容を、こうして映画で見ると、とても心に残る」「今の時代にない心豊かになる映画で、子供に見せたいと毎年来ている」「映画フェアの映画には、愛がある。今は物ばかり豊かな時代になり、愛が不足していると思う。そのようなときに子供に気付かせたい大切なメッセージがある。」との感想が寄せられました。

また今年度は映画会社の皆さんとの「フィルムを知らない子供たちに実際の16ミリフィルムを見せたい」という要望を受け、御協力から16ミリフィルムの体験コーナーを設置しました。フィルムに触り、懐中電灯をあてて映像を見たりした子供たちからは「フィルムの感じがよかったです」「もっと触りたい」との感想がありました。来年度も同様のコーナーを設置したいと考えます。

最後になりますが、御協力いただいた各映画会社の皆様、ありがとうございました。また一般社団法人日本視聴覚教育協会のほか、公益財団法人文京アカデミーにも共催を、並びに東京都教育委員会、文京区教育委員会にも後援もいただきました。ありがとうございました。



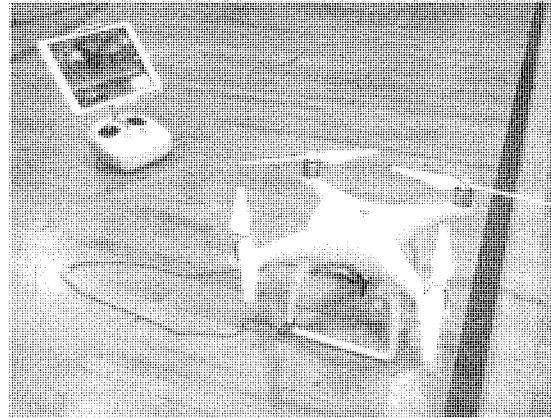
夏期講座

8月18日(木) 文京区立湯島小学校体育館

今年度の夏期講座では、最近話題になっている「ドローン」の教育的利用の可能性について取り上げた。業者の方に実際「ドローン」を飛ばしていただき、動きや送られてくる映像などを確かめた。

○はじめに、現在の「ドローン」をめぐる状況について説明を受けた。

- ・年々性能が上がるとともに、値段も安価になってきている。
- ・4Kのカメラを取り付けることで、高精細な画像を簡単に撮影することができる。
- ・専用の無線操縦機にタブレット等をつなげて使用する。タブレットは基本的に機種を選ばない。
- ・操縦するには、講習を受けて資格を取る必要がある。
- ・建物が多い都市部などは、ほとんどの地域が飛行禁止であり、飛行させるためには許可が必要。
- ・今回は体育館の中なので許可はいらないが、体育館の中でも子供がいる場合は飛行させられない。
- ・プロペラは大変力があり、万一触れた場合は大けがをする。



○「ドローン」を実際に飛ばして、動きや送られてくる画像を確認した。

- ・動作音や風切り音は大きいが、動きはなめらかで小回りがきき、安定している。
- ・自動追尾機能などがついていて、撮影がしやすい。

○教育的な利用について、以下の取り組みが報告されている。

- ・児童がプログラムを組み、計画したとおりに「ドローン」を動かす。
- ・身の回りで「ドローン」を活用するとしたら、どのような方法があるかを考えて発表する。

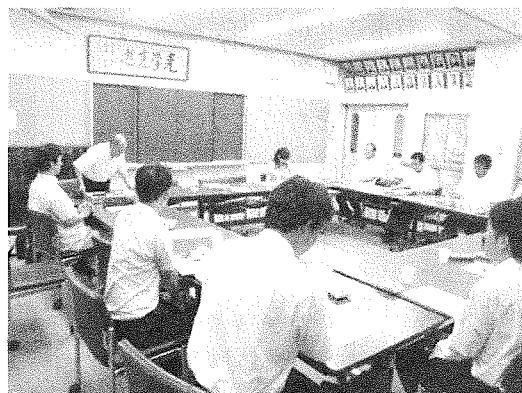
「ドローン」の教育的な利用については大きな可能性を秘めていると思われるが、現段階では制約も多く、今後さらに研究を進めていくことが必要である。

研究部総会

8月18日(木) 文京区立湯島小学校

夏期講座に引き続き、文京区立湯島小学校にて研究部総会を行った。

研究部総会では、研究主題「生きる力を育む視聴覚教育の追究」、研究のねらい及び構想、研究日程について確認をし、承認された。



事務局だより

都小視研では、平成28年度も様々な活動を行っています。以下に、主な活動について報告します。

■ 4月研推・事務局会

4月14日（木）会場 台東区立浅草小学校

平成28年度の組織や計画等の検討、第1回研究授業の指導案検討、昨年度の都大会の振り返りなどを行いました。

■ 5月研推・事務局会、映像研究会

5月12日（木）会場 文京区立湯島小学校

第1回授業研究会に向けての話し合いと、夏休み映画フェアの作品選定を行いました。

■ 顧問会

5月30日（月）会場 台東区立浅草小学校

平成27年度の事業報告、会計報告、平成28年度の組織、事業計画、予算についてご承認いただきました。

■ 6月研推・事務局会

6月16日（木）会場 台東区立浅草小学校

第1回研究授業の指導案検討、都大会の運営や授業内容についての検討を行いました。

■ 映画フェア実行委員会

6月9日（火）会場 視聴覚教育協会

夏休み映画フェアの打ち合わせを行いました。

■ 第1回授業研究会

6月27日（月）

・会場 台東区立浅草小学校

・学年教科 第3学年 理科

・単元名 「虫を育てよう」

・授業者 台東区立浅草小学校 川上 学 教諭

・講師 前渋谷区立鳩森小学校長

丸山 雅弘 先生

■ 7月研推・事務局会

7月7日（木）会場 杉並区立高井戸第四小学校

都大会の授業内容などについて検討しました。

■ 第1回理事会、講演会

7月26日（火）会場 中野区立北原小学校

平成27年度の事業報告、会計報告、平成28年度の組織、事業計画、予算について承認をいただきました。

・講演会演題 「プログラミング教育の今後」

・講師 東京家政大学教授

後藤 泰博 先生

■ 第17回こども映画フェア

8月18日（木）会場 文京シビックセンター

■ 第25回夏期講座、8月研推・事務局会

8月18日（木）会場 文京区立湯島小学校

ドローンの教育的活用について研修しました。

都大会の学習指導案等について検討しました。

■ 9月研推・事務局会

9月1日（木）会場 杉並区立高井戸第四小学校

都大会全般について検討しました。

■ 10月研推・事務局会

10月6日（木）会場 杉並区立高井戸第四小学校

都大会全般について検討しました。

■ 11月研推・事務局会

11月10日（木）会場 杉並区立高井戸第四小学校

都大会の事前準備をしました。

■ 第63回都小視研研究発表大会

第20回視聴覚教育総合大会

第68回放送教育全国大会 合同大会

11月18日（金）会場 杉並区立高井戸第四小学校

・研究主題 「生きる力を育む視聴覚教育の追究」

・公開授業 全学年公開(6学級)

・講演会演題 「教育の情報化のこれから」

・講師 東北大学大学院 教授 堀田 龍也 先生

■ 第20回視聴覚教育総合大会

第68回放送教育全国大会 合同大会(2日目)

11月19日（土）会場 オリンピックセンター

大会運営のお手伝いをしました。

都小視研会報 317号 (H28-2) 平成29年8月1日

発行 東京都小学校視聴覚教育研究会

責任者 会長 古谷 尚律

事務局 台東区立金竜小学校

編集 事務局 会報部

印刷所 タマタイプ Tel042-562-0965